

県指定重要無形民俗文化財(芸能)

津島の田植踊

ふるさと探訪

津島の田植踊は正月十四日(もと旧、今新暦による)に、小正月の行事として行なわれ、津島、南津島、下津島、赤宇木の四地区で、それぞれ家々を訪れて演ずる形式のものである。四地区はそれぞれ小異があるが、同じものと見ることが出来、人数や次第は各地区で同様である。現在、連合の保存会が組織されて保存をはかっている。

構成は、南津島の例によると、鉦頭一、種下し二、太鼓二、さゝら二、早乙女五等が出、早乙女は四つ竹、さゝら、末広等を持ち、或は無手にもなり、歌に合せて踊る。内容は、鉦頭の口上にはじまり、苗代、種蒔き、育苗、田植、収穫、稲摺の行事ひと通りのことが、歌と仕事によって行われる。最後に踊子が退場した後、鉦頭が一人残って祝言を述べる。その後太神楽七芸などの余興も演ぜられることがある。

古風な歌がそれぞれに沢山残っており、「豊年田植手踊」とも呼ばれているが、この催しは、旧歳、新歳のみろく世を祝するものともいわれる。

踊は古風で、と、のつたものであり、伝承はしっかりしている。正月予祝行事の典型として県内では貴重な存在である。



所在地 双葉郡浪江町下津島字町五〇番地
保護団体 津島郷土芸術保存連合会